

(A09\_yukari) 【ユカリ】「私の名前はユカリっていうの、よろしくね」  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「この耳と尻尾が珍しい？ それともこの服？ 多分どっちもあまり見ない  
(A09\_yukari) わよね、私ね、東方の出身の巫女で黒狼の獣人なの、自分でも目立つのは  
(A09\_yukari) 自覚してるわ」  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「今この国は荒れてるみたいね、その影響が東方まで及ばないか先行して調査に来たの」  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「だから奇妙な事件や不審な出来事があれば、教えてくれない？ あ、でも  
(A09\_yukari) 一つ先に言っておくわね、そーいう事があって私が関わったとしても……  
(A09\_yukari) 最後まで解決するなら、貸しとして計上するから」(にっこり)  
(A09\_yukari) 以上！  
(A09\_yukari) きっぱりしてさっぱりして、ちゃっかりとしたおねーさん巫女？(なんだそれは  
(Alt\_GM) w  
(Alt\_GM) さて  
(Alt\_GM) それではー……おねーさん巫女の大冒険第一話、始めさせていただきます！  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM) HCランドリ्यूフ戦記  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM) オープニング  
(Alt\_GM) 帝都クレディウムから馬車に揺られること2日半、ユカリさんは現在峻嶒な山岳地帯のド真ん中あたりに位置する小規模な森の入口に立っています。  
(Alt\_GM) この起りは5日ほど前、ユカリさんが身を寄せる小さな東方神の社へと持ち込まれたとある噂。  
(Alt\_GM) 『山奥の森を隠れ蓑にした邪教信仰の集落が『生贄』と称して人狩りを行っている、すでに通りかかった旅人が数人行方不明になっているらしい』とかそんな感じ。真偽の程は定かではありませんが、まあ放っておける話でもなく……社の長の命令でユカリさんが調査、ないしは討伐にやってきたというわけです。  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「確かに随分と山奥にある村ね、外界との接触が薄い分何があっても不思議じゃない、か……」  
(A09\_yukari) ぐるりと山肌と森を見渡して呟きます。  
(A09\_yukari) えーと、道はあるんですよ？ その集落まで普通に  
(Alt\_GM) ありますねー、森の中に一歩ではありますが整備された道が伸びております。  
(Alt\_GM) 多少石とか転がって歩きにくそうではありますが、特に通行に支障がありそうなほどではありません  
(A09\_yukari) なるほど……では堂々と入っていきましょう、旅人が寄った、ということだからこの先にも道はあるでしょうしー応は普通の旅人のつもりで  
(Alt\_GM) ういさういさっ  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「と、いってもこの帝国だと目立つこの服装で、普通の旅人に思われるなんて……思っていないけれどね」  
(A09\_yukari) そして小さく笑って、森の中に足を踏み入れて生きます。自信に満ちた足取りで  
(Alt\_GM) ではー……しばらく森の小道を進んでいくと、ざわざわっ……と回りの木々がざわめきます。周囲を岩山に囲まれた地形である以上風が強いのは当然と言えば当然なのですが……  
(Alt\_GM) ここで魔力判定をどうぞー、目標値は8  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「嫌な雰囲気ね、こういうのは苦手だけど……」  
(A09\_yukari) 呟いてすっと目を閉じます。魔力を操るのとかは苦手なのですが、少しでも動きを掴むようにっ！  
(A09\_yukari) 2d6+1  
(kuda-dice) A09\_yukari -> 2D6+1 = [3,1]+1 = 5  
(A09\_yukari) 失敗！(胸を張って  
(Alt\_GM) (ぼむ、と肩に手を  
(Alt\_GM) ではでは、その風にユカリさんは小さな違和感を覚えますが、違和感の正体が何かなのまでは感じ取れません。聞こえてくるのは葉のざわめく音と風の声だけ。  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「やっぱり無理ね、ま……手がかりを探す方法はいくつでもあるわ」と、肩をすくめて中に入っていきます。森のざわめきに少し嫌な空気を感じながら  
(Alt\_GM) そして、ユカリさんがしばらくそのまま歩を進めていくと、  
(A09\_yukari) 村に着くかしら？  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「止まれ、その女」全身を真っ黒なローブに包み、顔まで黒い布で隠した怪しさ全開の男が小道の脇、茂みからがさがさと出てきますね。人数は2人、彼らの後ろに小さく家のような建物が見えてたりします。  
(Alt\_GM) 残念ながら村にはまだ！  
(A09\_yukari) なるほど、村じゃなくて小屋が道沿いにある感じかしら  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「何か私によう？」特に取り乱さずに、平静に相手を見つめます  
(Alt\_GM) そですね、今のところはそんな感じ、奥に行くと集落っぽいものも見えますが>状況  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「(この2人の服装……帝国基準でも怪しいわよね?)」とか頭の隅で思いながら  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「ここから先は我々の村だ、一体何の用でこちらへ向かっている？」ユカリさんの疑問など素知らぬ顔、押し殺したようなくもった声でそう問いかけてくる2人組。  
(A09\_yukari) えーと再確認、旅人が立ち寄ったって言う事は、この先にも道が続いてるってことですよ？>GM  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「この先に向かうのよ、途中の村で一晩くらいは休むとは思うけれど、それがどうかした？」  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「我々の村は今儀式の準備でよそ者を入れることはできないことになっている。この先へ行きたいのなら、別の道を探せ」黒い布越しに僅かに覗く不気味な目でユカリさんを品定めするようにじろじろと頭から爪先まで眺めつつ。  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「儀式……ね、解ったわ、帰ることにするからそんな風にじろじろみるのやめてくれない？」といいつつ踵を返して帰りましょう。もちろんそーするふりをするだけで、男達が見えなくなったら別の方向から侵入するつもりですが  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「どこを見ていよう和我々の勝手だ、さあ、早く立ち去ってもらおうか」門番のようにその場で仁王立ちになったまま小さくなっていくユカリの背中を睨みつけ……ていると思いきや、男の1人が足音を立てないようにユカリの後ろにそっと近づくと……  
(Alt\_GM) ここで知力判定、目標値11っ  
(A09\_yukari) 2d6+8  
(kuda-dice) A09\_yukari -> 2D6+8 = [5,6]+8 = 19  
(A09\_yukari) ふふ、魔力がない分知力は高いのよw

(Alt\_GM) よゆーでわかりますねw

(A09\_yukari) 【ユカリ】「で、そのあなたは、足音を殺して何をしてるのかしら？」

(A09\_yukari) と、振り向きもせずに呼びかけるわ

(Alt\_GM) 【黒服の男】「.....ほう、気がついたか」ちっ、と小さく舌打ちを、それに合わせてパチンと指を鳴らすと、「その服装が東方の巫女のものであることは我々も知っている。大方、噂を聞きつけて調伏に来たところだろう」ユカリの前に立ちはだかるように現れる新しい黒服男2人。後ろにいる2人と合わせて、4人で挟みうちにされる形。

\*Alt\_GM topic : [邪教の信徒(4) × 2][ユカリ][邪教の信徒(4) × 2]

(A09\_yukari) 【ユカリ】「そういう風に言うってことは、噂が真実だと認めるわけね.....予想の範囲内だけど、その怪しい格好を見たら」

(A09\_yukari) 納得した、と、言う顔で黒い獣尻尾と耳をさっと揺らしながら、扇を取り出して構えるわ！

\*nick CC\_Raia BrancBord

(Alt\_GM) 【黒服の男】「貴様.....今、怪しいと言ったか？」不快感をあらわに、黒い布の下で表情が歪むのが手に取るようにわかるでしょう「我らの礼服を怪しいとは.....許せん、捕えて長老の所へ引立てるのだ！」リーダー格の男の一声で黒服の男は手に手に短剣を取り出し、戦闘態勢に！

(Alt\_GM) ではでは、戦闘開始してよろしいでしょうか！

(A09\_yukari) O K !

(Alt\_GM) ではまず開幕フェイズ、魔法使用しますか！

(A09\_yukari) 【ユカリ】「この帝国で巫女装束も珍しいけれど、あなた達のはそれ以上に目立って、怪しいわね」

(A09\_yukari) 今回は開幕ではなしね

(Alt\_GM) あいさー、ではI V 9のユカリさんからどうぞ！

(A09\_yukari) では、後ろの連中にツイスター+マスター-ゲット！

(A09\_yukari) 4d6+7

(kuda-dice) A09\_yukari -> 4D6+7 = [6,6,6,1]+7 = 26

(A09\_yukari) 2 6発のダメージ、扇の一振りで男達をなぎ払う感じで！

\*Alt\_GM topic : [ユカリ][邪教の信徒(4) × 2]

(Alt\_GM) 【黒服の男】「うえ？」「お.....っ？」何が起こったのかも理解できなかったのだろう、ユカリの扇の一振りに情けない声を上げて吹っ飛ばす黒服達。どさっ、と背中から地面に着地して動かなくなって。

(Alt\_GM) 【黒服の男】「ひ、怯むな！」「この隙を付いて.....！」吹っ飛ばされる仲間たちの姿に二の足を踏みながらも、僅かに隙のできたユカリに襲いかかっていく残りの黒服2人！

(Alt\_GM) 3d6+3 《ダークネスヒット》

(kuda-dice) Alt\_GM -> 3D6+3 = [1,5,1]+3 = 10

(Alt\_GM) 3d6+3 《ダークネスヒット》

(kuda-dice) Alt\_GM -> 3D6+3 = [2,5,5]+3 = 15

(A09\_yukari) 一発目はそのまま胸に受けて8点減少、二発目はスウェーで半減させて、腰にあてて7点減少、残りA P 2/1/0！

(A09\_yukari) アクトは特になし！

(Alt\_GM) おっけー、決死の突撃で黒服ズがユカリさんにしがみついた感じで！

(Alt\_GM) というわけで、ロール頂きつつネクストラウンドへ！

(Alt\_GM) 開幕 能動、と続けてどうぞっ

(A09\_yukari) 【ユカリ】「.....少しはやるみたいね、でも、大事な装束を傷つけた報い.....受けてもらうわよ」あちこちが破かれた巫女服を見て静かに威圧して

(A09\_yukari) 開幕なしで能動、ツイスター+マスターゲット！

(A09\_yukari) 4d6+7

(kuda-dice) A09\_yukari -> 4D6+7 = [5,1,2,5]+7 = 20

(A09\_yukari) 出目が悪いわね、生き残りそう

\*Alt\_GM topic : [ユカリ]

(Alt\_GM) .....体力1の雑魚にタフネスを期待しないでください(お

(A09\_yukari) 体力1だったのね.....w

(Alt\_GM) というところでしがみついていた人たちはノされて4人ともユカリさんの足元でぐったりしています(

(A09\_yukari) 【ユカリ】「さて、これからどうしようかしら。このまま起こしても、素直に吐くとは思えないけれど」

(A09\_yukari) 僅かに思案し、男達を森の中に放り込んで縛り上げて、猿轡をかまします。そして男達の服ってロープでしたよね、巫女服の上から着れますか？w

(Alt\_GM) 着られます.....が！

(A09\_yukari) が？

(Alt\_GM) 男たちを縛り上げてロープを奪ったところで周囲にガサガサと人の気配、それも1人や2人ではありません。茂みをかき分ける無数の音が着々と近づいてきているのがユカリには分かります。

(A09\_yukari) 【ユカリ】「交代の人員かしら.....少し拙いわね」では、ロープたちを縛ってそのまま少し距離をとって隠れます。ロープを剥ぎ取っていく事は出来ますか？

(Alt\_GM) 交代の人員.....というか、そんなレベルの数ではない感じですね、隠れようにもここは森の中の一本道、そう上手く隠れられる場所も見当たらずに。

(A09\_yukari) 森の中に隠れるもの無理かしら？

(Alt\_GM) こー、前からだけでなく森の中からも人の気配がしてる感じですよー。円形に包囲されてる雰囲気？

(A09\_yukari) なるほど、それは隠れられそうにないわね

(A09\_yukari) 【ユカリ】「一人相手に随分と念の入った包囲網ね.....」このまま隠れるのは難しいか、と判断し

(A09\_yukari) 【ユカリ】「(儀式とやらのために何が何でも捕まえる体性でいたのか、それとも社への情報自体が私を誘き寄せる罠だった、そのどちらかと考えたほうがよさそうね)」

(Alt\_GM) では、そんなユカリさんを取り囲むように次々と黒服の男が脇の茂みから、道の向こうから、一糸乱れぬ陣形を維持したまま現れますね

(A09\_yukari) 連中が姿を現すまで、そのまま立っていきましょうか

\*Alt\_GM topic : [邪教の信徒(4) × 1 0][邪教の信徒(4) × 1 0][ユカリ][邪教の信徒(4) × 1 0][邪教の信徒(4) × 1 0]

(Alt\_GM) エンゲージで書くところな感じ(自重しろ

(A09\_yukari) 流石にそれは無理ねw

(A09\_yukari) 【ユカリ】「女一人相手に随分と念の入ったことね？」と、からかうような声を連中に向けてみたり

(Alt\_GM) 【黒服の男】「わかっていると思うが、抵抗は無意味だ。さすがにこれだけの人数相手に立ち回りはできまい」ユカリの真正面にいる男がそうぼそりと、「何とでも言うが、我らの教えでは物事を上手く進めるためにあらゆる努力を惜しまないのが美德でね.....まあ、そんなことはどうでもいい、これからお前を長老の元へ連行する。異論は無いな？」

(A09\_yukari) 【ユカリ】「いいわよ、何を見せてもらえるのかしら？」

(A09\_yukari) と、余裕を装いつつも内心では少し危ないかな、と思っています。でも表情には見せない(あ  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「それをお前に知らせる必要はない、……ああ、それから、暴られると困るのでな、腕は縛らせてもらう」  
横に控えていた男がずいっと前に進み出ると、ユカリの手を背中に回させて、両の手首を麻の縄で後ろ手に拘束する。  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「好きにすればいいわ」とりあえず、この場ではそのまま拘束されましよう  
(A09\_yukari) 流石に40人は突破できない! w  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「素直なのはいいことだな」拘束を受け入れるユカリの態度に黒い布の下で小さくほくそ笑みながら、「さ  
あ、準備はいいな、着いてこい」そう言って踵を返すと、集落の方に向かって黒服軍団が行進を開始。横に控えた男たちに促され、ユ  
カリも同じ方向へと、  
(Alt\_GM) こー、戦ってもいいですよ(えー  
(Alt\_GM) でもお勧めしませんが!  
(A09\_yukari) 流石に無謀なのでやめます、10人吹き飛ばして終わるのでw  
(Alt\_GM) あいさw  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「はいはい」鬱陶しそうに呟いて、周囲の様子を観察しながら歩きます  
(A09\_yukari) 40人の戦闘員って……村全部の戦闘員が来てるのか、それとも意外に大きい村なのか  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM) ミドルシーン：長老との謁見  
(Alt\_GM) 【黒服の男】「ここだ、我らが長老の御前、くれぐれも粗相の無いようにな」黒服の男たちに護送されて辿り着いたのは、  
集落のど真ん中に建てられた小さな神殿のような建造物、中に入ると石造りの床の上に赤い絨毯が真っすぐ、その先には他の男たち  
と同じ黒いローブを纏った男がどっかりと豪華な椅子に腰を下ろしております  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「あなたがこの村の長老？」周囲とその男を観察します。手は後ろに縛られたままで  
(Alt\_GM) 【長老】「いかにも、そなた、名は何と言う？」玉座に腰かけたまま、びくりとも動かずに、低くよく通る声が神殿に反響  
し、どこか不気味な厳かさを醸し出しながら、  
(Alt\_GM) なお、ユカリをここまで連れてきた黒服軍団のみなさんは横で膝をついて待機中。  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「(風格は充分ね、それ以外はどうかしら?)ユカリよ、名乗ったんだから貴方の名前を聞いてもいいかし  
ら?」>長老  
(Alt\_GM) 【長老】「私か?私に名など無い、全てを神に捧げているのだからな」くっくっ、と小さな笑いが不気味なほどにクリア  
に聞こえてくる。「……その装束、東方の神に仕える巫女の物だな、お主に問おう、今の信仰を捨て、我らが神に仕える気は無い  
か?」  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「ないわね、私は東方コノハナサクヤノヒメに仕える巫女、それ以外のものになるつもりはさらさらない  
わ」  
(Alt\_GM) 【長老】「そうか、……まあ、我らとしてもそう簡単に協力してもらえとは思っておらぬ」その答えを予期していたか  
のような、あくまで落ち着き払った口調で、「……しかし、我らとしても、神降ろしの儀式に巫女は欠かすわけにはいかぬのでな、賭  
けをしてみぬか?そなたが勝てばここから無事に帰してやろう。だが、負ければ我らの巫女となってもらう」言いながらも、ユカリ  
を威圧するような重苦しい声、  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「賭け?……大分読めたわ、するところ考えていいのかしら?『巫女を捕えるために、私達の社にわざと  
情報を流した』と、会ってる?」眉をひそめてすこし考えた後で  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「そしていかに怪しい申し出だけど、現状の私で断る術はないわね」後ろ手に縛られたまま、肩をすく  
めてにやりと笑う  
(Alt\_GM) 【長老】「ほう、中々聡い娘のようだな、ますます気に入った。そなたの考えに間違いはない、役にも立たぬ人間を捕えたり  
はせぬよ」くっく、と小さく笑って見せて、「状況の判断もできるか、これは良い巫女が流れてきたようだな……賭けの内容は簡  
単だ、お主には我らの神の洗礼を受けてもらう、洗礼を終えた後、まだ信仰を捨てぬと言えたらお主の勝ちだ……だが、それ以外の場  
合はお主の負け、異論はないか?」  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「構わないわよ、それくらいで私がコノハナサクヤノヒメの巫女を降りるわけがないもの」腕は縛られて  
いるので、腰から伸びているふさふさの狼尻尾を挑発的に振ってみたり  
(A09\_yukari) あ、挑発的って言うのは性的な意味じゃなくてね? w  
(Alt\_GM) ういさw  
(Alt\_GM) 【長老】「その言葉、再び聞けるとよいがな……おい」ちら、と脇に控えた黒服の男たちに目配せを、「客人を『洗礼の  
ほこら』へ案内せよ、道中、粗相のないようにな」横からユカリを挟むように黒服が立つと、長老に向かって深く頭を下げて  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「言ってみせるわ、勿論ね」ここは素直についていきます、堂々と胸を張って  
(Alt\_GM) そして、黒服の男たちは、ユカリを連れて『洗礼のほこら』へと……  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM) ~ 洗礼のほこら ~  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM)  
(Alt\_GM) 【黒服】「入れ」集落の外れまで歩くこと10分ほど、ユカリさんたちはゴツゴツした岩肌にはっきりと口を開けた小さ  
な洞窟の前まで辿り着きます。誰かが先に『洗礼』の用意をしていたのでしよう、岩壁に掲げられた松明の灯りを頼りに覗き込めば  
その薄い光に照らされて洞窟の最奥にぼんやりと祭壇のようなものが見えるような見えないような、  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「中々雰囲気だわね、腕はこのままなの?」洞窟特有の湿った空気が漏れ出す空気を感じつつ、奥の  
祭壇に素早く視線を走らせながら男に質問しますよ  
(Alt\_GM) 【黒服】「中に入って『洗礼』の用意ができたなら解いてやる、いいからさっさと入るんだ」相変わらず感情の伺えない冷  
たい口調、ユカリさんを先導するように薄暗い洞窟の中へと入っていきます。背後から着いてきていた黒服もユカリさんをせつつい  
てきますね  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「はいはい」軽く溜息をついて中に入っていきます。途中、警備が薄くなったらすぐにでも実行行使に出  
るつもりで  
(Alt\_GM) では、ユカリさんは黒服に囲まれて奥の祭壇まで連れて行かれます。冷たい石造りのソレはおよそ縦5メートル、横15  
メートルほど、篝火の台やら良く分からない置物やらそれっぽい物が目につきますが、何よりも目を引くのは祭壇の奥に飾られた、  
思いつくままにあらゆる生物をごちゃまぜにして作ったようなグロテスク極まりない生物の彫像、おそらく、これが彼らの信仰する  
『神』なのでしょう  
(A09\_yukari) 【ユカリ】「これはまた……」その自分が信仰する『神』とのあまりの違いに、本当にこんなのを信仰してるの?  
といった顔で呆れています>彫像 そしてそれとは別に祭壇全体を見て、これから何が行われるのか、推測しようと思しますが  
(Alt\_GM) 【黒服】「どうした?我らの神のあまりに雄々しき姿に圧倒されたか?あきれ顔を浮かべるユカリにそう問いかける、そ

の声色に皮肉や他意は何えない。「本来ならこのようなものは使わぬのだが、.....貴様は余所者だ、洗礼の途中で逃げられないように釘を刺しておいてやる」どこから取り出したのか、男の手によって祭壇の真ん中に打ち込まれる楔、そこから伸びるのは鎖で繋がれた足枷、黒服の男はそれをユカリの足に嵌めようとしてくる。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「雄々しさというよりは禍々しさと言ったほうが適切ね、好きにすればいいわ」特に足枷を嵌められる時も抵抗せず、しかし、その強気な顔に浮かぶ反撃の意思はいささかも揺らいでいない、ただ時期が来ていないだけ、との判断

(Alt\_GM) 【黒服】「ふん、何時までその反抗的な口が聞けるかな？.....よし、腕の拘束を解いてやれ」がちやり、と重い音とともにユカリに足枷が嵌められる。鎖の長さはせいぜい2メートル程度、つまり祭壇から外に出ることは禁じられた形に、そしてリーダー格の黒服の指示で、後ろ手に縛られていたユカリの手首がようやく解放される。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「やれやれ、ようやく手が動かせるわね」縛られてうっすらと赤い筋がついた手首を撫でつつ、祭壇に繋がれた状況を確認

(Alt\_GM) 【黒服】「ああ、思う存分手を使うといい」これまで感情の伺えなかった黒服の声に、微妙に含みらしきものが混じる。周囲を見回しても何も起こる気配は無い、にもかかわらず黒服達はユカリの周りから離れ、洞窟の外へと歩き出す。「『洗礼』には3日の時間がかかる。それまでここでゆっくりしている、時が来たらまた迎えに来てやる」びた、と足を止めると、黒服は背を向けたままそう言い捨てて、

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「三日、ね」黒服たちに含まれるまでもなくこれから何か不快な出来事が起こるのは予測しているので、特に取り乱しもしませんが、油断もしません、男達が外に出るのをみえています

(Alt\_GM) 【黒服】「ああ、三日だ、それでは、元気で過ごすことだな」最後にそう言い残すと、ユカリをここまで連れてきた黒服達はすたすたと今度こそ歩みを止めることなく洞窟の外へ出ていく、彼らが洞窟の中からいなくなると、ゴゴゴ...と重い音とともに洞窟の入口が扉のようなもので閉ざされてしまって、

(Alt\_GM) 後に残ったのは、松明の小さな明かりと湿った空気、そしてシンとした静寂だけ、

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「言われるまでもないわ、さて、何をしてくれるのかしら？」目の前の気味の悪い祭壇を見つめながら、呟きます

(Alt\_GM) そう呟いた瞬間、辺りの空気が一変します。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「.....来る？」じゃらり、と足首に繋がった鉄鎖を鳴らしながら体勢を整え、何が来ても対応できるように備えながら

(Alt\_GM) 洞窟中に満ちる禍々しい瘴気、それは魔力の扱いを得意としないユカリにも肌を刺すように感じ取れる、眼前に鎮座するグロテスクな神像の瞳が紅く輝いたかと思うと、小さな洞窟はその姿を変えていく.....ゴツゴツした岩壁は粘液滴る肉の壁に、祭壇の置物は禍々しい肉塊のような生物に、ユカリの立つ石造りの祭壇はそのまま残ってはいるものの、生々しく蠢く肉洞窟はまるで生き物の口の中を連想させるようで、

(Alt\_GM) 異神の洗礼 (ピシヨップ/耐15攻3特22)

(Alt\_GM) TP40/体力or魔力/攻2d6+6/《淫毒》《責め具の呪い》《バインディング》《豊乳の呪い》《侵食攻撃》

(Alt\_GM) 淫気に満ちた禍神の口の中、滴る粘液は強烈な媚毒となり、触れる者は狂おしいまでの淫熱に苛まれるだろう。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「本性を現した、って言うわけね」強気な態度は崩さないものの顔には緊張が走り、目の前の彫像を睨みつけ

(Alt\_GM) そして、異神の洗礼が始まる

(Alt\_GM)

(Alt\_GM) とゆーことで、3日間の洗礼を体力or魔力で耐えきってください(えー

(A09\_Yukari) 耐えます、こんな所で屈服してられない！w

\*Alt\_GM topic : [ユカリ/異神の洗礼(40)]

(Alt\_GM) ではまず、1ターン目っ

(Alt\_GM) 開幕使用しますかー？

(A09\_Yukari) 使用します、開幕ウィークポイント！

(A09\_Yukari) 1d6

(kuda-dice) A09\_Yukari -> 1D6 = [5] = 5

\*Alt\_GM topic : [ユカリ/異神の洗礼(35)]

(Alt\_GM) 了承、それでは能動行動をどぞどぞ

(A09\_Yukari) では体力で突破判定に行きます！

(A09\_Yukari) 2d6+6

(kuda-dice) A09\_Yukari -> 2D6+6 = [6,3]+6 = 15

\*Alt\_GM topic : [ユカリ/異神の洗礼(20)]

(A09\_Yukari) 気合はいった抵抗ぶり！

(Alt\_GM) うおおお、1ターンで半分まで持ってかれた(あー

(Alt\_GM) しかし、ここで終わってなるものか！バステ4重の洗礼が入りますー

(Alt\_GM) 2d6+6 通れば[催淫][拘束][爆乳][責め具]

(kuda-dice) Alt\_GM -> 2D6+6 = [5,2]+6 = 13

(Alt\_GM) 浸透なので半分にしてHPダメージっ

(A09\_Yukari) えーと、侵食だからHPに直接、それをさらにスウェーで半減！7の半分で、4点HPに通って、残りHP34！

(A09\_Yukari) B S入って.....アクトは射乳と、汚された象徴、いけますか？

(Alt\_GM) おっけおっけ！

(A09\_Yukari) 訂正、残りHP35点です

(Alt\_GM) 紅く光る神像の目に気をとられた一瞬を付いて、ついさっきまで置物だった肉塊生物のいくつかがばぁん！と小気味よい音を立てて爆ぜる、子供の頭大ほどだった生々しい肉の塊が、ピンポン玉程の大きさの無数のナメクジのような生物へと姿を変えて、それらは祭壇に自らへの『生贄』が囚われていることを悟ると、石畳に粘液の跡を残しながら、緩慢な動きであちこちからユカリ目指して這いずってくる。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「予想通り.....だけど、あまり嬉しくない状況ね」複数の肉塊生物がぬらぬらと粘液を垂らしながら這いよってくる、その光景に僅かに顔をしかめ、祭壇から一定以上離れられないという自由を制限された状況ながら、両手に力を込めてバケモノを迎撃し

(Alt\_GM) ナメクジ状の生物はユカリの手で次々と蒸発させられて行く.....が、悲しいかなその手は2本、次々と置物だった肉塊生物はナメクジへと分裂を続け、圧倒的な物量で波のようにユカリに押し寄せ.....ぬる、と足首にナメクジの粘液の感触、それを皮切りに、ずるずると奇妙な感触を残して無数のナメクジ達が足首からぶくらはさき、膝へと徐々に這い上がってくる。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「きゃうっ！汚いのが張り付いて.....離れなさいっ！気持ち悪いわね.....！」両手で迎撃しつつ、足を振って取り付いたナメクジを振り払おうと、だが、それはぴったりと張り付いて全く剥がれようとせず、巫女服のスカートの上から、中から両脚を伝って上へ上へ、と這い登っていく、両手が自由なら迷わず剥ぎ取っていた所だろうが、他のバケモノを迎撃するためにそこまで手が回らず

(Alt\_GM) 一部のナメクジは太股から脚の付け根までせり上がり、巫女服の中でユカリの玉のような肌に粘液を擦りつけていく。ナメクジの脚は無数の繊毛状になっていて、ぬらりと動くたびにキメの細かいブラシで肌を撫でられるような、微妙な感覚がユカリを襲う。スカートの中がいっせいに膨れ上がったと見るや、次波のナメクジ達はスカートに直接よじ登り、ユカリの象徴たる巫女服を粘液で汚し.....首筋や服の合わせから服の中へと侵入しようとする。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「何処触ってるの！そこはバケモノ何が触れていい場所じゃないわ！」大量のナメクジがスカートの中に入り込み、内側から歪に膨れ上がる。東方からの慣習を変えていないためユカリはショーツなどの下着を身につけておらず、赤い袴の下はそのまま剥き出しの肌で、その上を繊毛のようなナメクジの脚で這いずり回られると、むず痒いような感覚が下半身よりせりあがって

(A09\_Yukari) そして、膨れ上がった下半身を覆う袴の外側もナメクジに取り付かれてゆき、先頭で多少破かれて刷いたが美しかった巫女服が汚らしい粘液で汚され、布地がびったりと張り付くくらいに、どろどろに汚されていく

(Alt\_GM) ユカリの制止もお構いなしに、ナメクジは下半身を粘液で汚していく。両脚をすっぽりと飲み込まれ、やわやわと擦られるような感触。べったりと肌に貼り付いた上半身の巫女服の中にも次々とナメクジが入り込み、サラシで抑え込まれたボリューム満点の乳房を好き勝手に這いずりまわり、わきの下や二の腕、脇腹を繊毛が擦り、くすぐったいような奇妙な感覚を送り込んで.....さらに、喚くユカリを黙らせようとするかのように、首筋に纏わりついてい

(Alt\_GM) たナメクジの一匹がその口の中に飛び込もうと。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「胸元にまで.....いい加減にしろ.....んうっ！？」袴の内と外で蠢くバケモノの感触に動揺し、迎撃速度が鈍り始める。そうならば加速度的に身体に到達するナメクジ達が増え、白衣のの合わせめから入り込んだ生物が胸を包むサラシを引き剥がし、着せさせるため普段はそれほど目立たない、しかし大きすぎるほどに突った乳房を露にしてしまう

(A09\_Yukari) 白布の拘束から逃れた乳房はふるりと揺れながら上衣の外へとでてしまい、恥しい場所をむき出しにされたことに叫びかけるも、その隙をついてナメクジが口の中へと入り込む

(Alt\_GM) 露にされたたわわな乳房、ナメクジから見れば非常に美味しそうに突った双果実に肉の責め具は我先にと殺到する。たゆんと揺れる乳房にでたらと粘液の跡を残しながら、ナメクジ達はその柔らかさを楽しむように蠢く。

(Alt\_GM) そして、口の中に侵入したナメクジに驚いてユカリが声を漏らした瞬間.....意外に柔らかなそれはぷしゅっと音を立てて潰れてしまう。その拍子にユカリの口内に溢れ出る妙に甘ったるい粘液、大量にぶちまけられたそれがとろりとユカリの喉を通る。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「んんっ、うーっ！け.....えっ！なんてモノを、飲ませるのよ.....！」口の中に広がる粘液まみれのバケモノの感触に形の良い眉をぎゅっとしかめた刹那、ナメクジが潰れて粘液の塊と化してしまう。皮膚を除いてすべて水で出来ていたのでは、と思えるほどの分量に吐き出しきれず、幾らか飲んでしまい、咳き込んで吐き出しながら敵意を込めて胸元で動く個体を目をやると、両手で掴んで放り捨て、しかし、あまりに数が違うため

(A09\_Yukari) 一匹二匹引き剥がした所で、すぐに胸元に、スカートの中に、外に、とりつかれてしまう。

(Alt\_GM) 1匹剥がせば2匹取り付き、2匹剥がせば4匹取り付く.....そんな絶望のないたちごっこを何度か繰り返した時、ユカリの身体に異変が訪れる。ずくんと、身体の内から熱いモノが疼くようにせり上がってくる感覚。頭の中に霧がかかったように微かに思考は鈍り始め、それに反比例するように、全身余すところなく擦るナメクジの繊毛の感覚が嫌にはっきりと認められる。くすぐったい、気持ち悪いに混じって、びりりと痺れるような心地よさがユカリの脳髄に染み込んでくる。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「一体何匹いるのよ、こいつら.....！まとめて吹き飛ばしてもまた湧いてくるし、こう数で責められると、さすが.....に.....？」身体の内から湧き上がってくる淫熱の疼き、それまで嫌悪感の方が遙かに大きかったナメクジの繊毛の感触が、次第に心地よいものになっていく。触腕にも似た無数の脚の先端から分泌される粘液の感触も何故かさほど不快ではなくなってきて、その感覚の変化に戸惑い、頭を振って正気を取り戻そうとする

(A09\_Yukari) すると当然、まろびてた双乳が薄暗い洞窟の中で震えながら卑猥に揺れ動き、汗と粘液を飛び散らせながら躍るように弾んで。

(Alt\_GM) 頭を振って落ち着きを取り戻そうとするユカリ、だがそれを嘲笑うように熱と疼きは頭の先から指一本に至るまで、身体の隅々まで広がっていく。それに追い討ちをかけるように、これまで這いずりまわるだけだったナメクジが、ちゅうう.....！と肌に吸いついて来て、それだけではない、今まで全身に万遍無く広がっていた肉の責め具が、袴の下に隠された股間や揺れ動く双乳、いわゆる"性感帯"へとその分布を集中させてくる。びっちり

(Alt\_GM) 閉じられた割れ目や、その上に位置する肉の芽、そして震える胸の先端を繊毛が擦ると、痺れるような心地よさが増幅されて脳に伝わってくる。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「ん.....こいつらの動きが集中して.....まさか！？っ！いやらしい連中ね！何が『我が神』なの、淫祀邪教だわ完全に！」身体が奥から熱を帯び始め、四方八方から性感帯を責められる。白衣の外で揺れる双乳の先端、乳首にナメクジが繊毛を絡ませ、淡い茂みの下で息づく女陰の入り口で割れ目を謎素用に数匹のバケモノが前後に動きまくる

(A09\_Yukari) 不可解な身体の内熱とバケモノたちの動きが頭の中で一致し、『洗礼』とう意味を理解した瞬間罵倒の声が口をつくが、強気な声とは裏腹に体は確実に発情を始めており

(A09\_Yukari) ナメクジが這いずり回り、赤い袴が内側から侵略者の形に浮き上がった下半身をもぞもぞと動かし、快楽のため淫蜜が徐々に分泌され始めて

(Alt\_GM) 口をついて出る罵倒の声、それに煽られたかのように肉の責め具たちは動きを激しくする。僅かに分泌された淫蜜を内側についた口がじゅじゅっと嚙りあげる、それに気をよくしたか『もっと出せ』と言わんばかりに繊毛を割れ目ににゅりと滑り込ませ。

(Alt\_GM) もちろん、その責めは下半身だけに留まることはなく.....無数のナメクジに群がられたたわわな乳房に、ちくりと何かで刺されるような感触が走る。次の瞬間、ずくんと淫靡な熱が乳房の内側に生まれ.....それを発散するように、徐々にユカリの双乳が一回り、二回りと膨らんでいく。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「大人しくしなさい！私の身体はお前たちに上げるほど、やすくなってるの.....っ！？っう、なにこれ、胸が.....え.....ええええっ！？」ヴァギナの端でひっそりと息づく秘豆や、淫唇へ与えられる感覚は既に完全な『快感』で、人並にその手の知識のあるユカリはバケモノに責められて感じてしまっていることに、強烈な恥しさを感じてしまう。それを押し隠すために口調はさらに激しくなり、ナメクジの動きを制限しようと両脚を閉じるのだが

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「胸、が大きく、あそこ、も.....っあ.....あ.....！」見た目より遙かに柔らかなナメクジの肉体を潰してしまい、ぶちゅっと汚らしい液体が淫裂と淫核に降りかかる。それは媚毒を直接敏感な粘膜にぶちまける結果となってしまう、下半身が一気に熱を帯びて、そしてほぼ同時に数匹のバケモノが張り付く双乳に、一気に小さな針が突き立てられ

(A09\_Yukari) 胸の奥に強烈な違和感を感じたと思うと、ただでさえ大きな着せする乳房が目の前で肥大化していき、どうじに強烈な疼きが乳房の中に生じて、上と下から身体を快楽で狂わされ、悔しげに熱い吐息をはきつつ、悩ましげに顔を歪ませる

(Alt\_GM) ただでさえ大きかったユカリの胸は、今や元の大きさより2回り近く肥大化して、しかもただ大きくなっただけでは無い、口から吞まされた淫毒との二重の媚毒の効果によって、乳房を這いまわられるだけでゾクゾクと背筋に妖しい快感が走ってしまう。柔らかなそこを弄ぶようにナメクジの繊毛が乳房に沈めば、無理矢理作りだされた『快感』が胸の奥に溜まっていくようで。

(Alt\_GM) そして、下半身にも直接ぶちまけられるナメクジの媚毒液体、脚に挟み込まれて潰された同胞を心配する様子もなく、難を逃れたナメクジ達はその『餌場』に殺到する。粘液混じりの繊毛を入口付近の粘膜に擦り込むようにしながら、別のナメクジはその小さな口で皮に包まれた淫核をちゅうちゅうと吸い上げ責め立てる。

(A09\_Yukari) 【ユカリ】「.....っっっ！止めなさい.....ひいっ！そんなところ舐めたって.....っあっ！気持ち悪いだけなんだか.....ら！」表情が朱を帯び、艶を増して言葉を吐き出す顔を汗が伝い落ちる。こちらの計測で言えばGカップは下らなかつた巨乳は小ぶりのスイカほどまでに膨れ上がり、ナメクジがその上を這いずり回るとむに、と柔らかかにその体重で沈み込んで、さわ











